

別紙2 平成 29 年度 自己評価書 作成日: 2月9日 国分寺市立 第二中 学校 校長名 重松 靖

教育目標 : ○みずから学び 創造する	○心豊かに 互いを尊重する	○健康で たくましく生きる
めざす学校像 : ○学ぶ喜びが実感できる学校	○ふれあう喜びがあふれる学校	○夢を育む学校
めざす生徒像 : ○瞳輝く生徒	○深く考える生徒	○希望に満ちた未来を創る生徒
めざす教師像 : ○教育に対する熱意と使命感に富む教師	○一人一人の良さや可能性を引き出せる教師	○研修意欲に富みお互いに高め合う教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	分析コメント	改善策
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
学力の向上	学ぶ楽しさ、わかる喜びが実感できる授業を工夫し、確かな学力の向上を図る	ICT機器の活用や小学校教員との連携を通して、「分かる授業」、「楽しい授業」を実践するとともに、言語活動を工夫して「深く考える授業」を実践する	自分の考えなどをしっかり伝え合う活動を単元の中に位置づける	/	3	/	4	教員の81.8%が言語活動を意識した授業を実践していると回答した。生徒の89.9%が「授業を通して「読む・書く・話す・聞く」力がついたと回答した。教員が意識して言語活動を授業に取り入れることによって生徒の能力に良い影響を与えていることが伺える。生徒自身にも学力伸長の実感ももてている。	アンケート結果から生徒の意識を受け止め、ペアワークやグループワークなどの学習形態を積極的に授業に取り入れる。さらにグループの人数にも目を配り、従来のような6人グループから4人グループでの活動に参加することによって活動に参加する意識を高める。教員が言語活動の充実を意識した授業計画を立て実践していくことが必要不可欠である。
		各教科で、学習のねらいを明確にし、本時の目標を示して授業を展開するとともに、授業の振り返りを必ずさせる	4 [4]	4 [3]	4 [3]	4 [3]	教員の95.4%[100%]が実施していると回答した。生徒の82.2%[72.5%]が、授業ではめあてを意識して学習に取り組んだと回答した。教員の意識は高く、生徒の意識も昨年度よりさらに増加した。	教員の意識と比べると、生徒の実感はまだ低いが昨年度同期よりも増加しているのが徐々に浸透している。生徒の充実感をさらに高めていくために、学習のねらいを明確に示すと共にそれを意識して取りまかせ、意図的・計画的に授業の振り返りをさせる。また、授業改善推進プランに基づいた授業の工夫・改善を昨年に引き続き定期的に継続していく。	
豊かな人間性を育む	多くの人とふれあいながら、自己肯定感を高め、他を思いやる心や感動する心などを育み、夢と希望をもって生きる生徒を育てる	学級活動を充実させるとともに、特別支援学級や異学年との交流などを通して、思いやりの心を育み、いじめのない学校にする	「第二中学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを早期に発見し、迅速に指導する	4 [4]	4 [4]	4 [3]	4 [3]	教員の100%[100%]が「第二中学校いじめ防止基本方針」に基づき、迅速に指導していると回答した。また、「二中にはいじめがないと実感している」と回答した生徒は88.2%[85.8%]であった。高い水準を維持しているが、継続して生徒を見守る。	生徒の実感が教員の取組に比べるとやや低い状態である。生徒のいじめに対する意識が高まっていることは学校生活において感じることができる。人権に関する研修を踏まえ、教員の人権意識を高め、生徒がより安心して学校生活を送ることができるよう生徒会活動の活性化や日常からの見守り声かけ等の指導を継続して進める。
		様々な行事に主体的に取り組み、達成感を味わい、自己肯定感や自尊心を高める	運動会や合唱コンクール等の学校行事や委員会・係活動に主体的・積極的に取り組めるよう指導する	/	4 [4]	/	4 [3]	教員の100%[100%]が生徒に充実感を味わえるように指導を工夫したと回答し、生徒の95.6%[89.3%]が行事や生徒会活動・部活動を行うことに充実を感じたと回答した。リーダーを中心に主体的に活動させる指導と生徒が分たちで作り上げるという意識が浸透していることがわかる。	教員の意識と熱意が生徒の意欲の向上や充実感につながったと言える。この姿勢を大切に、生徒への日々の指導の中でも自分たちで考えさせて活動させる。そのような主体的に活動したと実感できる指導を今後も工夫・研鑽し、より質の高い、皆が誇れる学校を目指していく。
信頼される学校	特色ある教育活動を推進し、地域や小学校から信頼される学校を創造する	学区内小学校との交流を推進するとともに、地域とも連携し、安全で安心できる地域づくりに貢献する	地域との交流活動や、学区内内の小学校との間接的・直接的な交流を積極的に行う	/	4 [4]	/	1 [3]	教員は15回[15回]地域や学区内小学校との連携を行った。生徒は50.3%[51.3%]が、保護者は77.5%[82.3%]が連携を実感していると回答した。ここ数年生徒の実感が低い傾向があり気になる。質問の解釈が「二中」がどうかということではなく「自分」がどうかという判断をしているのではないかと考えられる。	地域との交流は例年通り行っているの、保護者の回答は毎年8割前後を保つことができている。しかし生徒の回答は毎年5割前後を推移している。生徒向けアンケートの質問文をきちんと解釈できるように書き直してみる必要がある。その上で国分寺調査や職場体験など地域で学ばせていただいている活動も交流の形の一つであると気づかせていく。さらに小学校との連携も目に見える形にしていこう。
		特別な支援を要する生徒の指導を全校体制で行うとともに、特別支援教育に関する情報を保護者・地域に積極的に発信し、理解を深める	ブログ、ホームページを充実させるとともに、教育活動の成果を学区内小学校へ積極的に発信する	/	3 [4]	/	4 [4]	保護者の90.1%[92.6%]が「二中の活動がわかりやすく伝えられている」と回答している。二中だよりや学年便り、二中ニュース(ブログ)での教育活動や学校情報の発信・広報活動が十分に浸透している成果だと考えられる。	高水準を維持できているので、今後も学校ホームページや学校ブログ、各種便りなどで二中の日常生活や行事、各学年の活動の様子などを積極的に地域・保護者に発信していく。また、各情報媒体の内容もさらに充実させ地域・保護者への理解が深まるようにしていく。

[]内の数値は前年度後期 回収率 : 保護者 86.7 % 生徒・教員100%
 ()内の数値は前々年度後期